

献 呈 の 辞

九州産業大学商学会は、平成15年3月末日をもって定年退職された山本政一先生のご功績を讃えるために『商経論叢』の記念号を編集し、商学部並びに商学会に対するご貢献に感謝の意を表します。

山本先生は昭和35年4月に佐賀大学専任講師に就任され、その後、東京経済大学、北九州大学および大分大学で教員生活を送られ、平成元年4月に九州産業大学商学部教授として赴任されました。先生は「英国国有化企業経営論—イギリス公企業の経営問題研究—」の論文によって、昭和39年に九州大学より経済学博士の学位を授与され、その後、今日にいたるまで経営学の中でもとくに公企業に対する研究で高い評価を受けてこられ、これらの研究の蓄積が教育指導および学外でのご活躍につながっているものといえるでしょう。

九州産業大学では、商学部の「経営学総論」「公企業論」、大学院では修士課程の「経営学特講」「経営学演習」、博士後期課程の「経営学原理特殊研究」などの科目を担当され、学生および大学院生の育成に多大なご尽力をいただきました。

山本先生のご貢献はこのような研究および教育面にとどまらず、図書館長、商学部長、大学院経済学研究科長、大学院商学研究科長という教育行政を担う要職に携わってこられたほか、学校法人中村産業学園理事・評議員として、大学運営の一翼をも担ってこられました。先生のご専門が公企業の経営問題の研究であることを考えますと、このような役職者の立場は先生にとって研究の実践の場であり、まさに適材適所の仕事であったといえるでしょう。とくに、平成5年の経済学部経済学科の商学部からの分離新設、同8年の大学院商学研究科修士課程および同10年の大学院商学研

究科博士後期課程の大学院経済学研究科からの分離新設に際しては、それぞれ学部長および研究科長としての手腕を発揮されたことは、われわれの記憶に新しいところであります。このように、先生の九州産業大学でのご活躍がまさしく現在の商学部の基礎になっております。私たち後輩が大学の激動の時代に受けたご指導と薫陶には計り知れないものがあり、まことに感謝に堪えません。

九州産業大学を含め多くの大学では、少子化による冬の時代に突入したといわれております。また高等教育機関であり、先端研究機関であるべき大学に対する社会の目も一段と厳しくなっておりますが、私たち後輩一同、先生のご指導を思い出しながら、21世紀に通用する九州産業大学商学部の創設をめざしてがんばる所存でおります。

山本先生におかれましては、ご健康に留意され、益々ご活躍されますとともに、今後も九州産業大学を見守っていただけますよう、お願い申し上げます。

平成16年2月

九州産業大学商学会長・商学部長

高橋公忠